



レガシー活用の正攻法

「2025年の崖」に挑む

日経BP 日経 xTECH/日経SYSTEMS

森山 徹

(E-Mail: tmoriyam@nikkeibp.co.jp)

アジェンダ

- (1) どうする「2025年の崖」
- (2) システム刷新の考え方
- (3) レガシーの活用手法
- (4) クラウドをうまく使う

(1) どうする「2025年の崖」

「2025の崖」って何？

多くの経営者が、将来の成長、競争力強化のために、「**デジタルトランスフォーメーション(DX)**」の必要性を理解している

しかし、既存システムが事業部門ごとに構築され、**データ活用ができなかったり、複雑化、ブラックボックス化している**

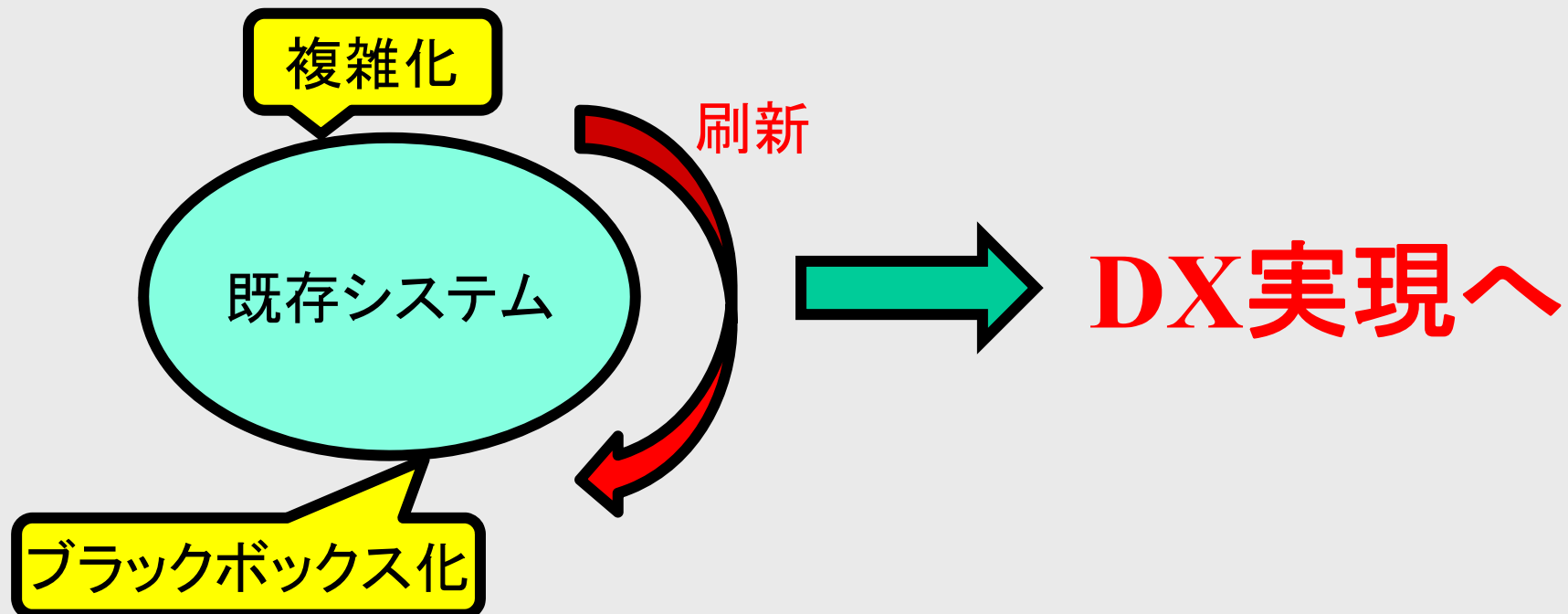
つまり、データ活用のために**既存システムの問題解決**、そのための業務の見直しなどをいかに実行するかが課題



もし、この課題を克服できない場合、DXが実現できないだけでなく、**2025年以降、最大12兆円／年の経済損失**が生じる可能性がある**(2025年の崖)**

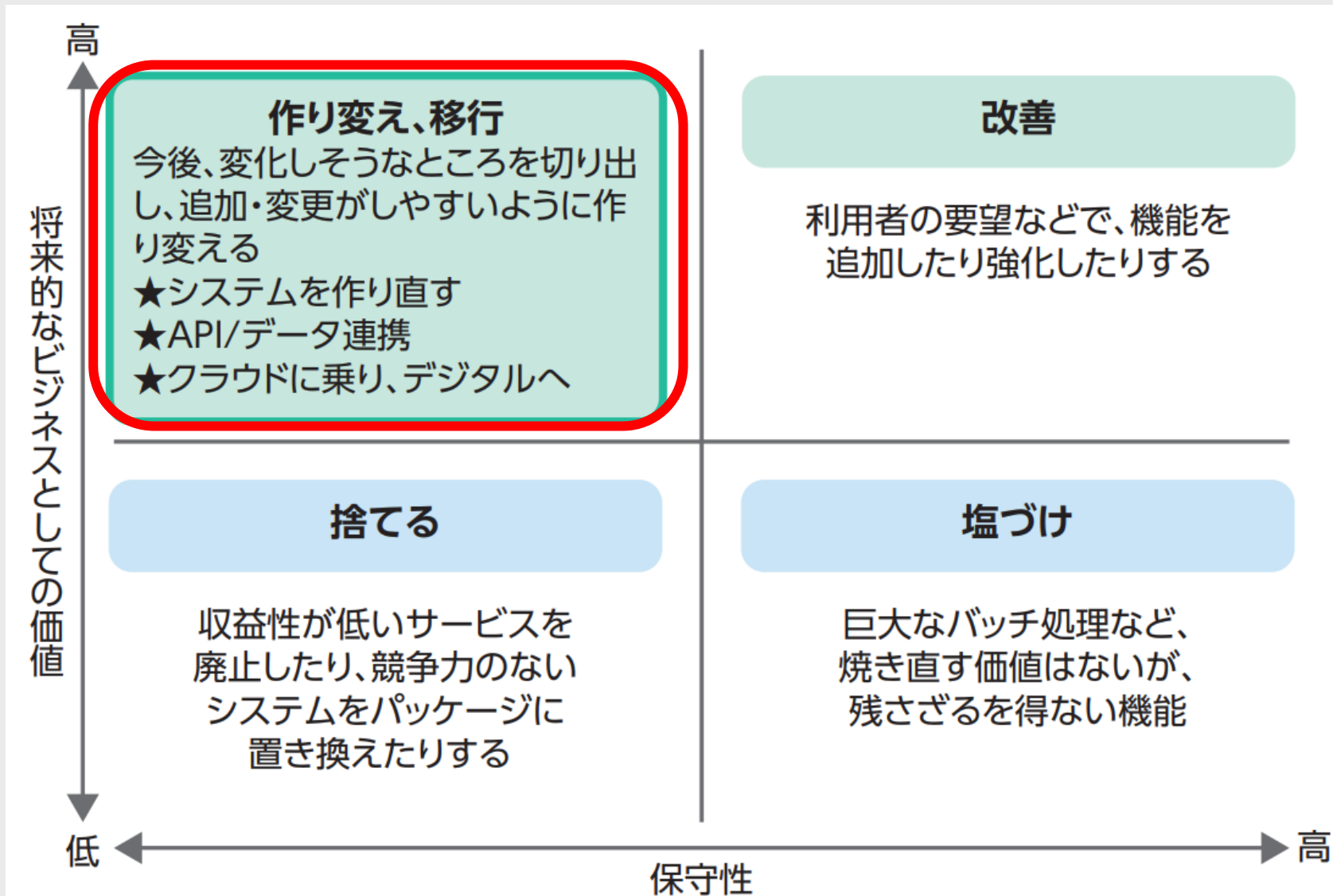
DX実現シナリオ

2025年までの間に、複雑化・ブラックボックス化した既存システムについて、廃棄や塩漬けにするもの等を仕分けしながら、必要なものについて刷新しつつ、DXを実現することにより、2030年実質GDP130兆円超の押上げを実現



(2) システム刷新の考え方

システム刷新の考え方(対象システム)

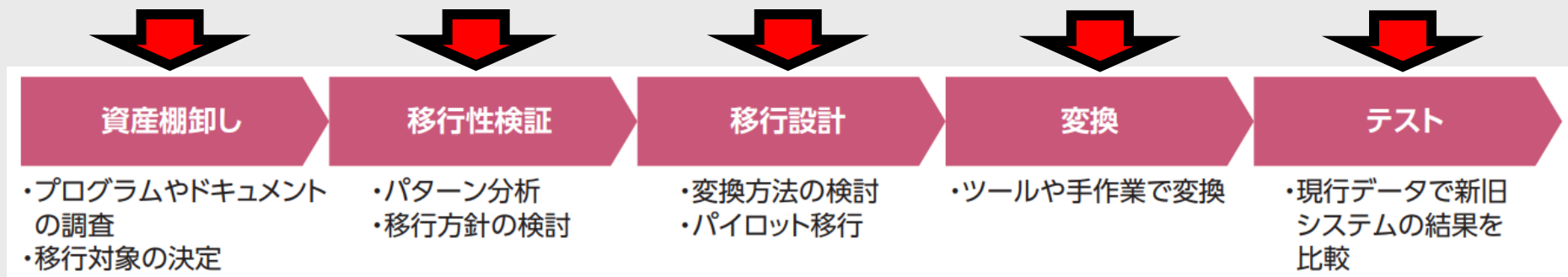


システム刷新の考え方(手法)

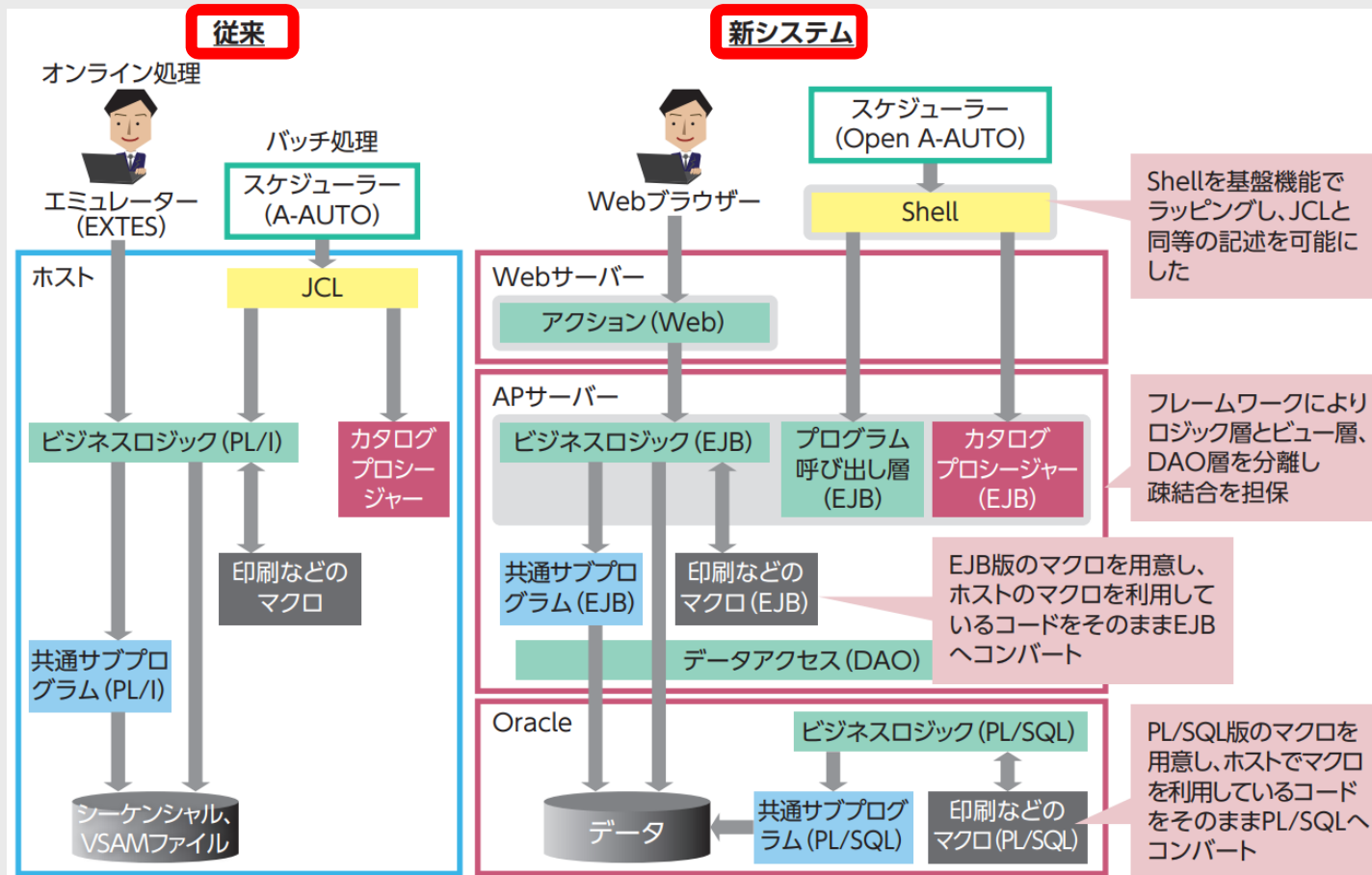


(3)レガシーの活用手法

リライトの工程

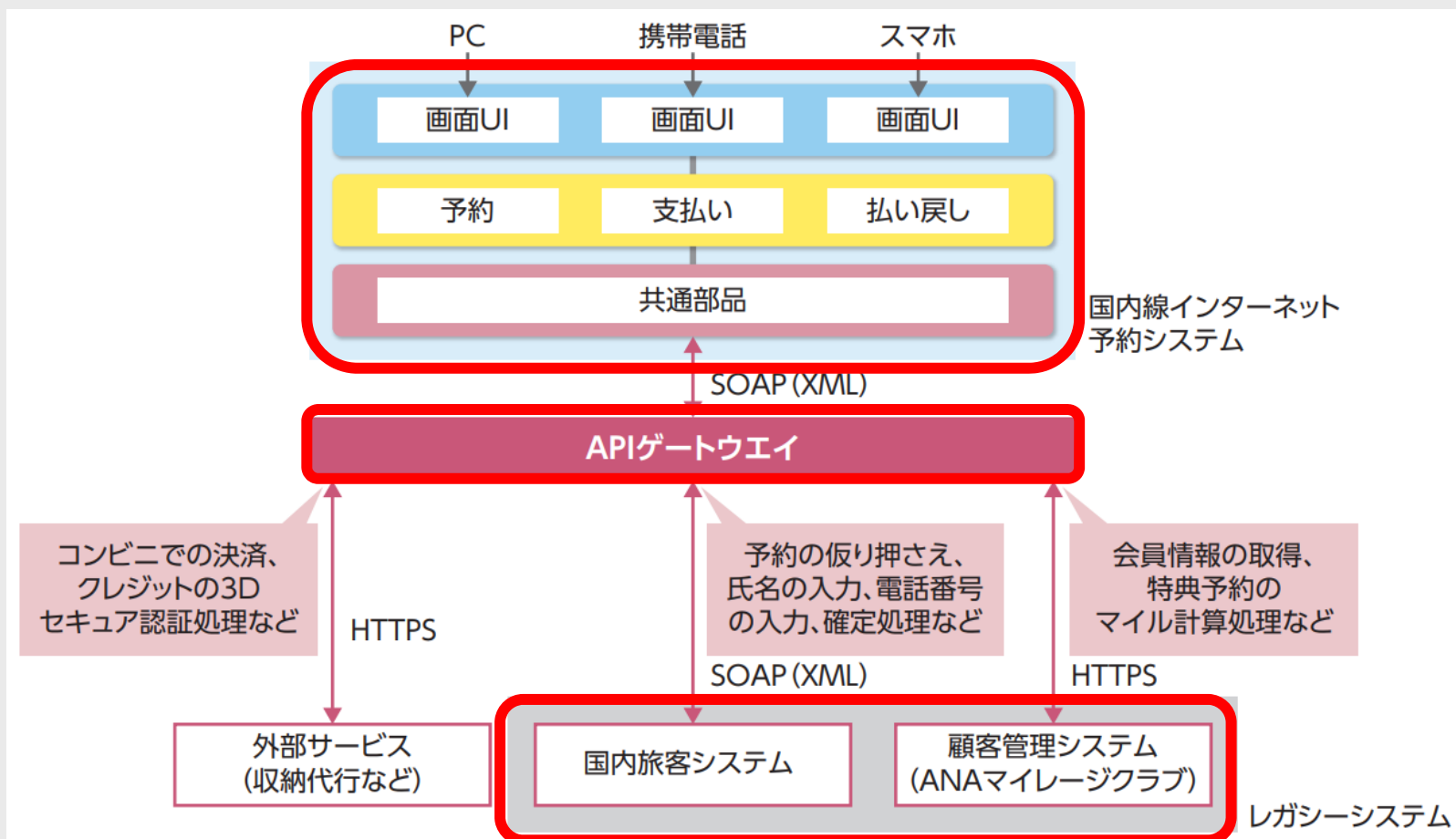


ユニチカが実践したリライト

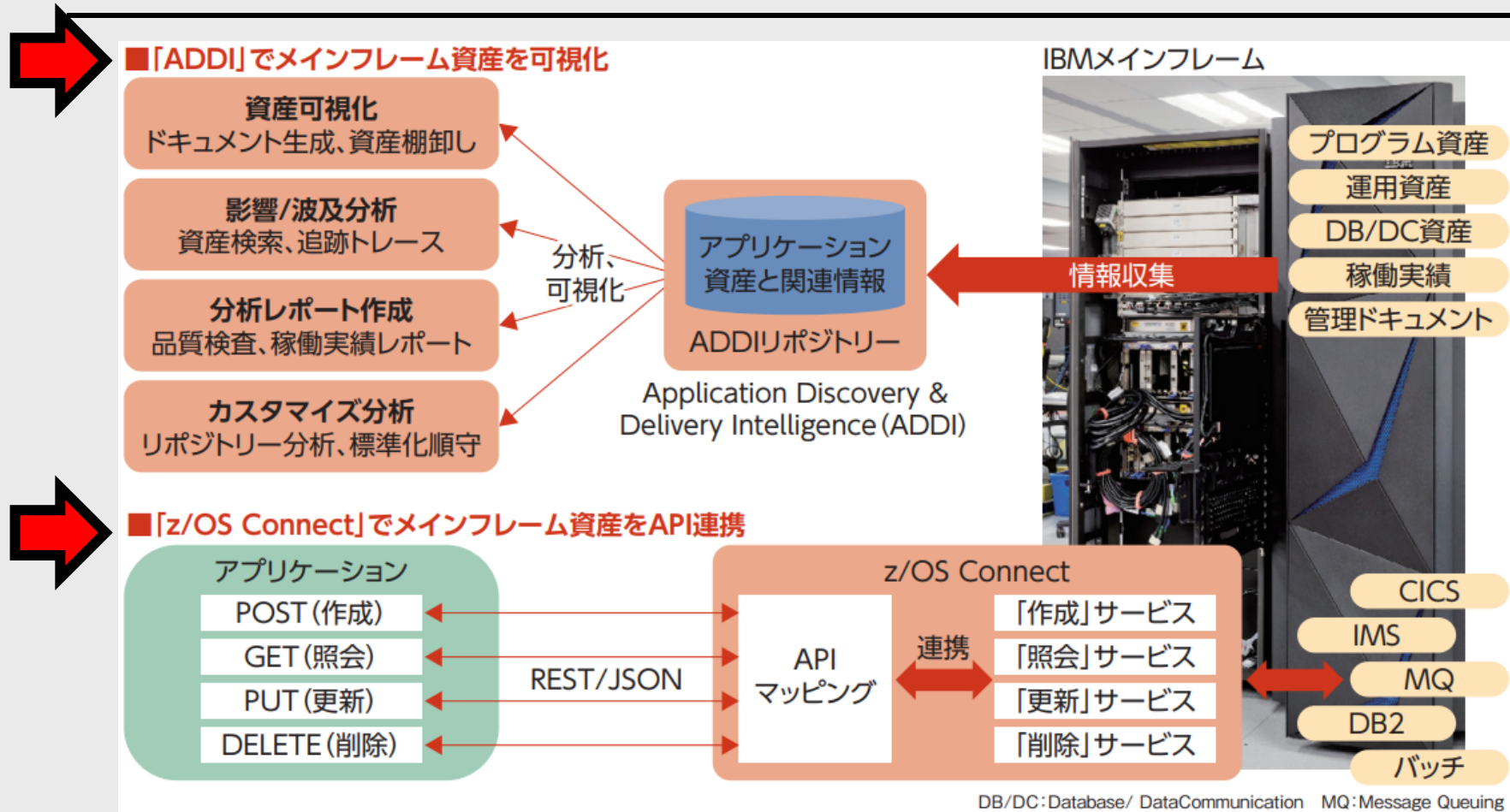


再レガシー化しなさない工夫が重要

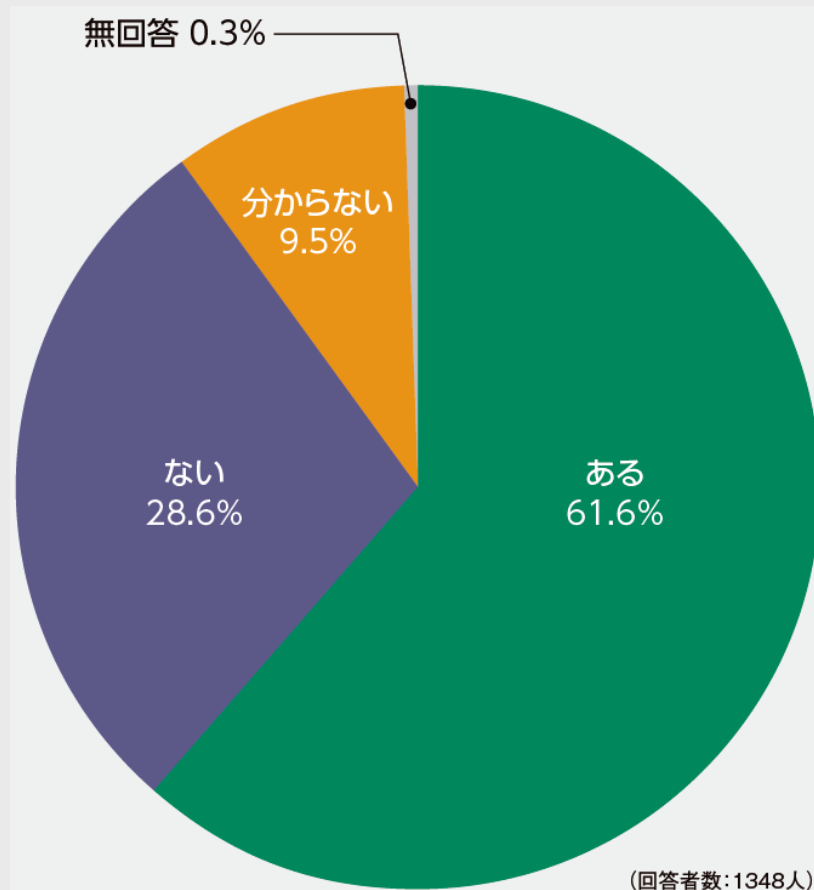
API連携を活用するANA



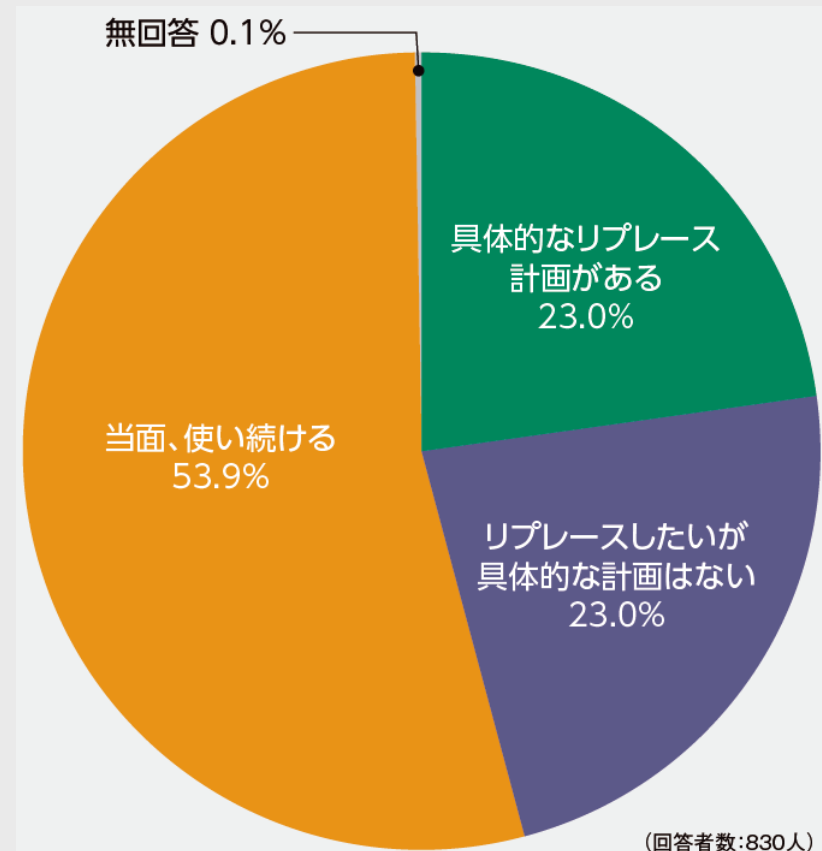
IBMメインフレームをAPI化



COBOLシステムは顕在

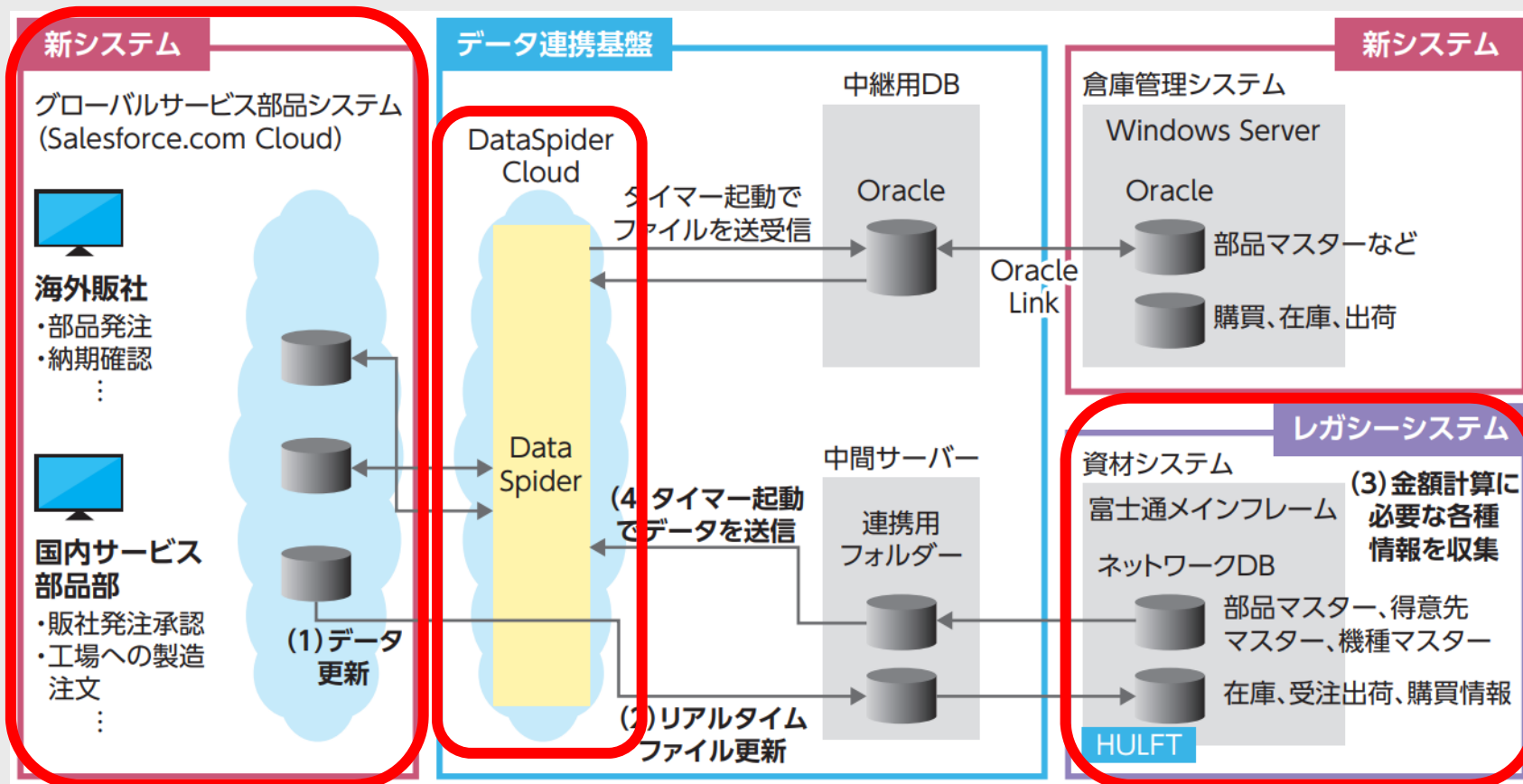


COBOLシステムの有無

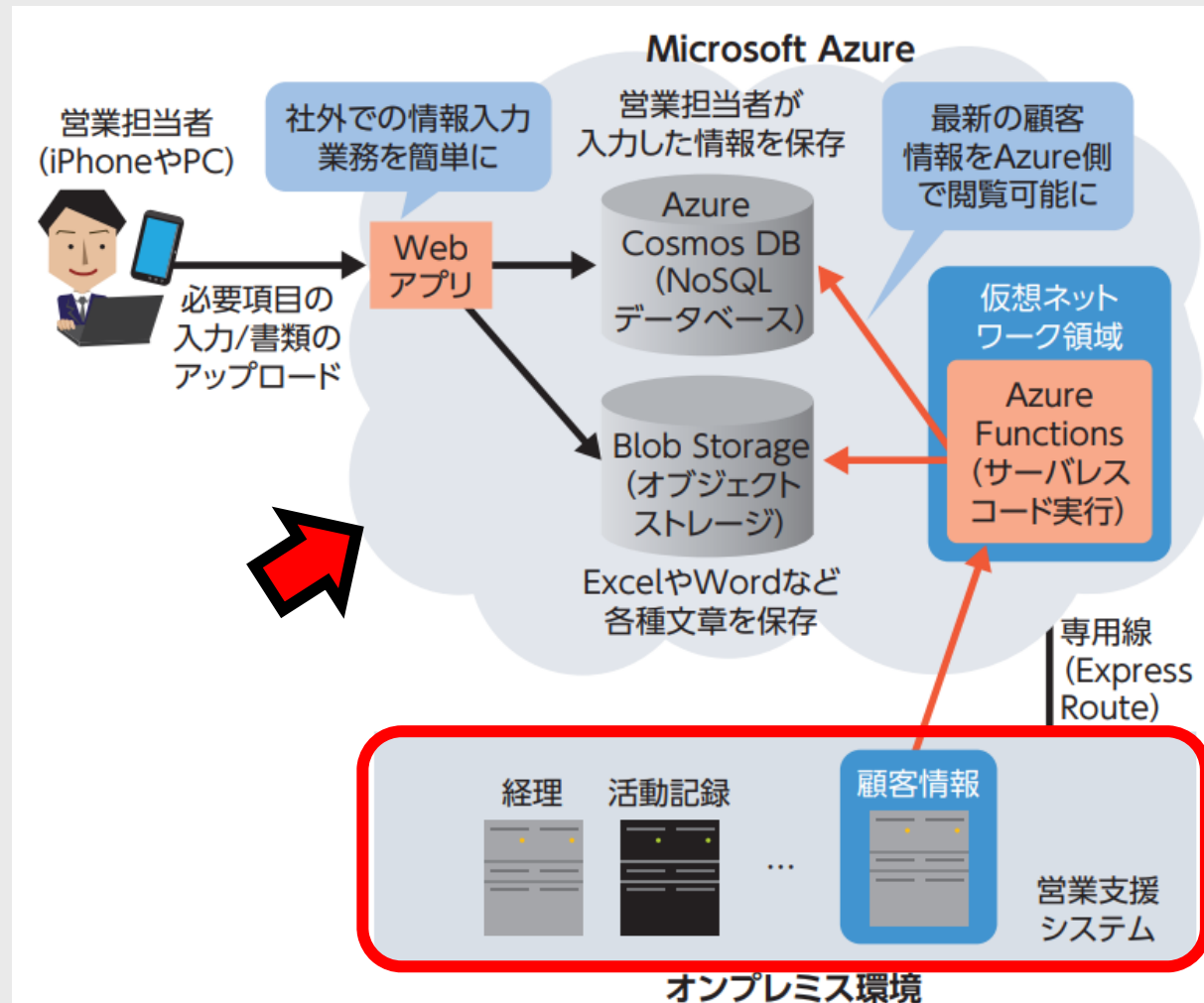


COBOLシステムの位置づけ

データ連携を活用する富士通ゼネラル



アサヒビールのデータ連携

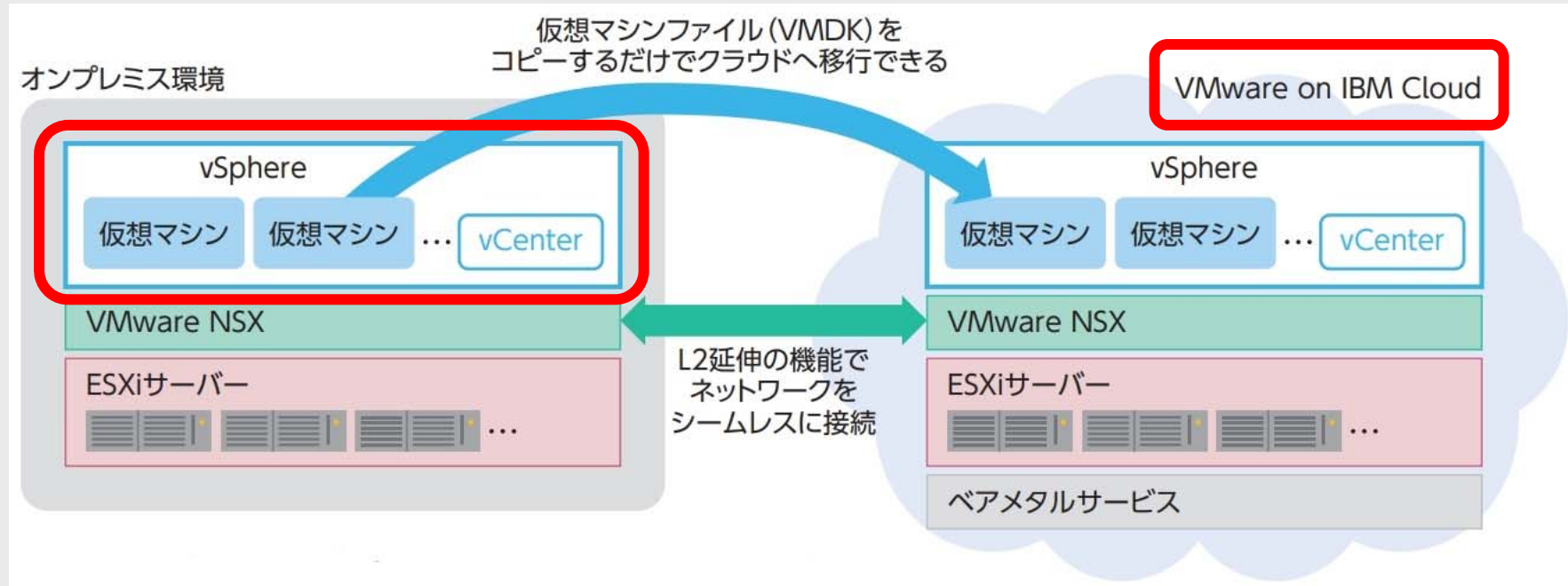


(4) クラウドをうまく使う

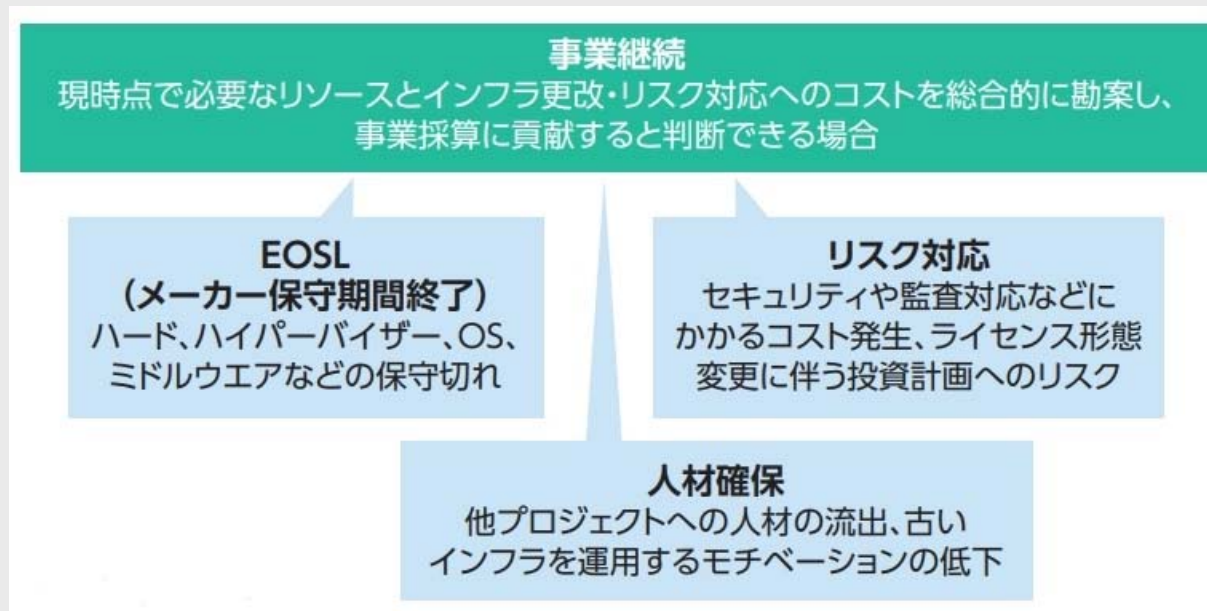
クラウドへの移行/活用パターン

	メリット	デメリット
(1) IaaSに単純移行	移行リスクが低い。 サーバーの運用が不要	機能強化は別途考慮が必要
(2) IaaS+PaaSで再構築	サーバー、OS、ミドルウェアの運用が不要	クラウドに合わせた再設計が必要
(3) サーバーレスで再構築	サービスを組み合わせるだけでシステムが作れる	サービスの仕様や制約に縛られる
(4) クラウドサービスでデジタル基盤を新設	既存システムに手を入れる必要がない	既存システムと連携する仕組みが必要

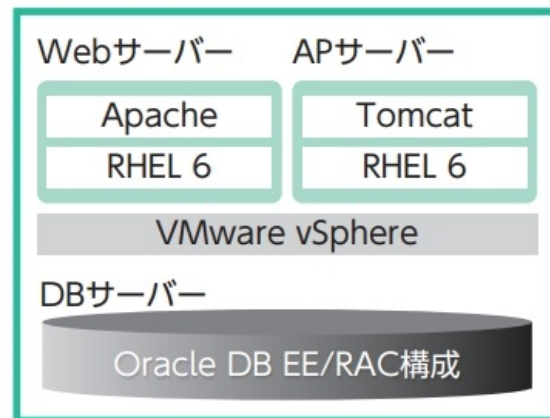
富士フイルムはVMware環境を移行



リクルートテクノロジーーズも移行中

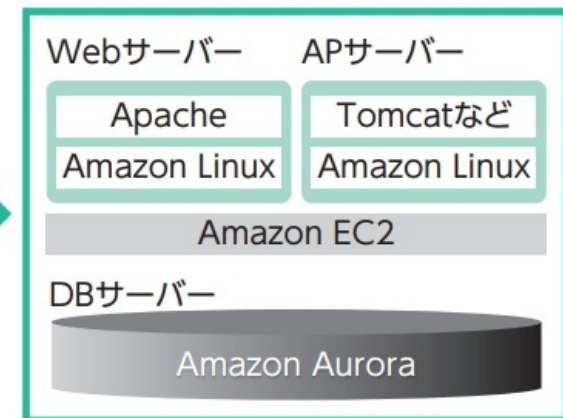


オンプレミス環境

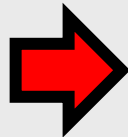


120サイトを移行中

AWS (Amazon Web Services)



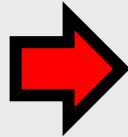
クラウドへの移行手順の例



STEP 1 全てのサイトの利用状況を棚卸し

- ・ハードウェアリソースの利用状況を整理
- ・ミドルウェア(有償、無償)と構成などを整理
- ・ホスト単一の構成なのか、他システム連携があるのかを調査
- ・アプリケーション影響範囲の整理

数ホストと構成が手ごろ、AWS上で耐え得る構成、システム連携がなく、アプリケーション影響がないサイトを優先してSTEP2へ



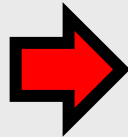
STEP 2 サイトごとにAWSの利用料金をシミュレーション

- (1) サーバーインベントリ情報、サイト側の運用体制を踏まえて移行パターンを洗い出し
- (2) サイトごとの利用状況、可用性要件などを踏まえて構成変更パターンを洗い出し
- (3) リザーブドインスタンス活用の有無を踏まえてパターンごとに利用料金をシミュレーション



STEP 3 サイトの担当者、キーマンと調整

- ・現状、およびクラウド移行時のシミュレーションに基づいて、移行判断などの調整を実施



STEP 4 トライアル (オンプレミス環境を利用しながらクラウドに新環境を構築)

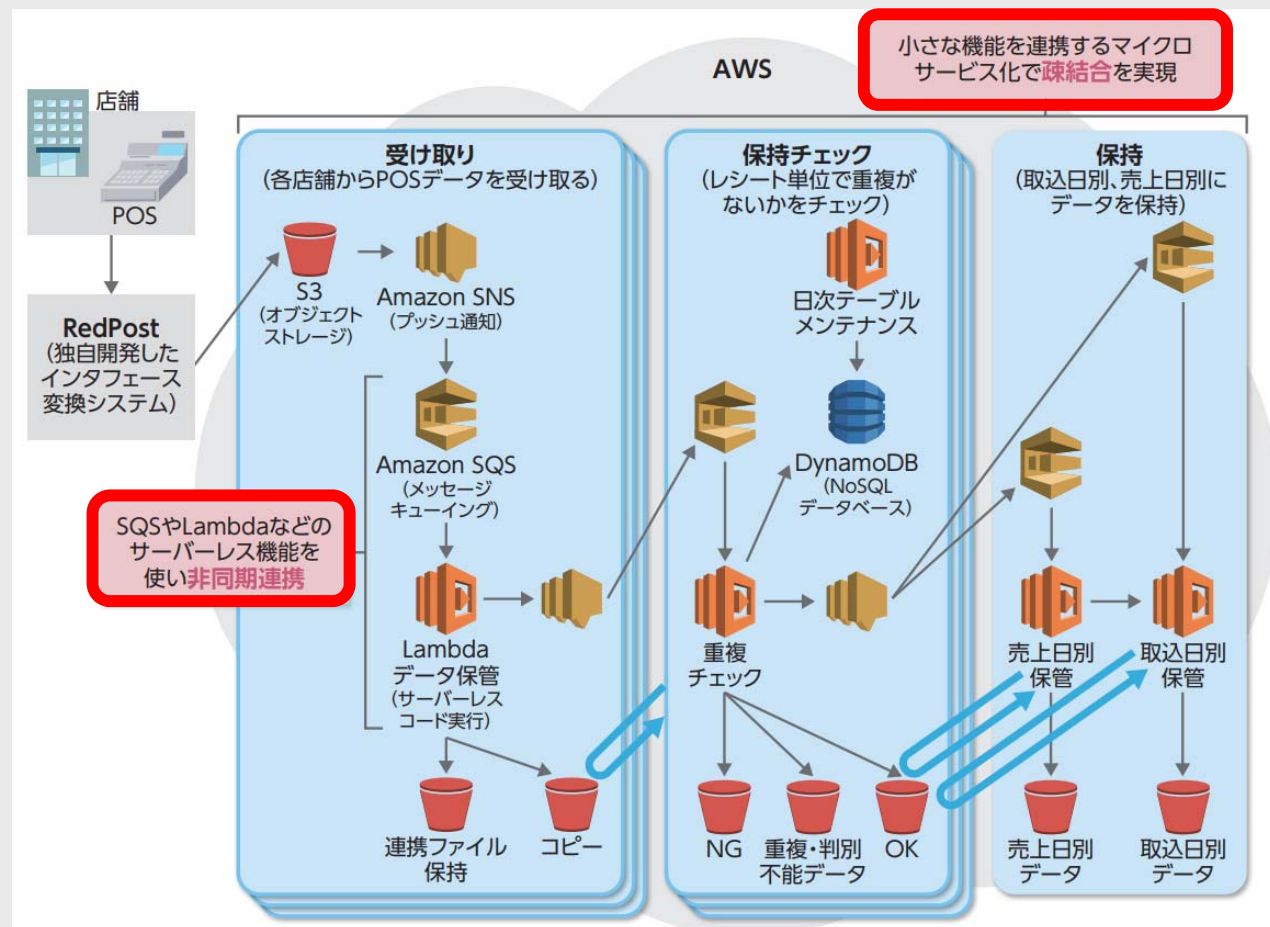
- ・クラウドにオンプレミス環境と同様のシステム環境を構築
- ・サイト担当者が、開発環境の使い勝手や、運用変更を確認



STEP 5 移行判断、切り替え (オンプレミス環境のシステムを撤去)

- ・DNSをクラウドに移行、オンプレミス環境とAWS上のシステムを切り替えて整合性を検証
- ・移行すると決めたら、データの最終同期を行い、DNSをAWS上のシステムに振り向ける

サーバーレス機能で開発したシステム



大創産業が作った、店舗POSから売り上げデータを収集、分析するシステム